

薬物相互作用一覧表

処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

日本薬局方ワルファリンカリウム錠

[薬価基準収載]

ワルファリン 錠 0.5mg
錠 1mg
錠 5mg

【警告】

本剤とカペシタビンとの併用により、本剤の作用が増強し、出血が発現し死亡に至ったとの報告がある。併用する場合には血液凝固能検査を定期的に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。〔「相互作用」の項参照〕

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

1. 出血している患者（血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の血液凝固障害、月経期間中、手術時、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、流早産・分娩直後等性器出血を伴う妊産褥婦、頭蓋内出血の疑いのある患者等）
〔本剤を投与するとその作用機序より出血を助長することがあり、ときには致命的になることもある。〕
2. 出血する可能性のある患者（内臓腫瘍、消化管の憩室炎、大腸炎、亜急性細菌性心内膜炎、重症高血圧症、重症糖尿病の患者等）
〔出血している患者同様に血管や内臓等の障害箇所に出血が起こることがある。〕
3. 重篤な肝障害・腎障害のある患者
〔ビタミン K 依存性凝固因子は肝臓で産生されるので、これが抑制され出血することがある。また、本剤の代謝・排泄の遅延で出血することがある。〕
4. 中枢神経系の手術又は外傷後日の浅い患者
〔出血を助長することがあり、ときには致命的になることもある。〕
5. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
6. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
〔「重要な基本的注意」及び「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕
7. 骨粗鬆症治療用ビタミン K₂（メナテトレノン）製剤を投与中の患者
〔「相互作用」の項参照〕

★製品に関するお問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン

☎ 0120(419)497 9～18時（土、日、祝日9～17時）

★弊社製品情報は、弊社 HP（<http://www.eisai.co.jp>）でご覧いただけます。

処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

日本薬局方ワルファリンカリウム錠

[薬価基準収載]

薬物相互作用一覧表

ワルファリン

錠 0.5mg

錠 1mg

錠 5mg

3. 相互作用

他の薬剤との相互作用は、可能な全ての組合せについて検討されているわけではない。抗凝血薬療法施行中に、新たに他剤を併用したり、休薬する場合には、凝血能の変動に注意すること。なお、本剤（光学異性体のS体）は、主として肝薬物代謝酵素CYP2C9によって代謝される。

(1) 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
骨粗鬆症治療用ビタミンK ₂ 製剤 メナテトレノン (グラケール)	本剤の効果を減弱する。 患者が本剤による治療を必要とする場合、本剤による治療を優先し、骨粗鬆症治療用ビタミンK ₂ 製剤の投与を中止すること。	ビタミンKが本剤のビタミンK依存性凝固因子の生合成阻害作用と拮抗する。

(2) 併用注意（併用に注意すること）

薬効分類	本剤の作用を減弱することがあるので、併用する場合には血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。	
催眠鎮静剤	バルビツール酸系及びチオバルビツール酸系薬剤	フェノバルビタール等
抗てんかん剤	カルバマゼピン、プリミドン、フェニトイン	
精神神経用剤	トラゾドン塩酸塩	
高脂血症用剤	コレステラミン	
鎮吐剤	アプレピタント	
ホルモン剤	副腎皮質ホルモン	ブレドニゾン等
ビタミン剤	ビタミンK及びビタミンK含有製剤	フィトナジオン（ビタミンK ₁ ）、メナテトレノン（ビタミンK ₂ ）、 経腸栄養剤、高カロリー輸液用総合ビタミン剤等
抗腫瘍剤	アザチオプリン、メルカプトプリン	
抗結核剤	リファンピシン	
抗真菌剤	グリセオフルビン	
その他の医薬品	ボセンタン水和物、納豆菌含有製剤	
飲食物	アルコール	
	セイヨウオトギリソウ（St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）含有食品	
	ビタミンK含有食品	納豆、クロレラ食品、青汁 上記以外のビタミンK含有食品

	その他の注意が必要なもの（本剤の作用減弱・増強以外の相互作用をきたすおそれがあるもの）	
薬効分類	薬剤名	臨床症状・措置方法
抗てんかん剤	フェニトイン、エトトイン	
ホルモン剤	甲状腺製剤	レボチロキシナトリウム水和物等 甲状腺機能低下症の患者に相手薬剤を投与し甲状腺機能が正常化すると血液凝固能が低下し、見かけ上本剤の作用が増強することがあるので、併用する場合には血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。
	抗甲状腺製剤	チアマゾール等 本剤の作用を増強することがある。 甲状腺機能亢進症の患者に相手薬剤を投与し甲状腺機能が正常化すると血液凝固能が亢進し見かけ上の本剤の作用が減弱することがある。 併用する場合には病態の変化に応じて血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。
糖尿病用剤	スルホニル尿素系 糖尿病用剤	グリベンクラミド、グリメピリド、クロルプロバミド、 トルブタミド等 相手薬剤の血糖降下作用を増強し、低血糖症状があらわれることがあるので、相手薬剤の作用増強に十分注意しながら投与すること。
抗リウマチ剤	オーラノフィン 動物実験でオーラノフィンの急性毒性を増強したとの報告があるので、併用に注意すること。	
抗HIV薬	ネビラピン、リトナビル、ロピナビル・リトナビル配合剤 本剤の作用を変化させることがあるので、併用する場合には血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。	

青字で表示したものは複数のカラムにわたり掲載されているので注意すること。

併用注意の薬剤の【機序・危険因子】につきましては、添付文書をご覧ください。

薬効分類	本剤の作用を増強することがあるので、併用する場合には血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。		
催眠鎮静剤	抱水クロラル、トリクロホスナトリウム		
抗てんかん剤	フェニトイン、エトトイン、バルプロ酸ナトリウム		
解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェン、トラマドール塩酸塩、ブコローム		
	セレコキシブ		
	メロキシカム、ロルノキシカム		
	アスピリン、イブプロフェン、インドメタシン、インドメタシン ファルネシル、エトドラク、ケトプロフェン、サリチル酸類、ジクロフェナクナトリウム、スリンダク、テノキシカム、ナブメトン、ナプロキセン、ピロキシカム、フルルビプロフェン、メフェナム酸、モフェゾラク、ロキソプロフェンナトリウム水和物等		
精神神経剤	メチルフェニデート塩酸塩		
	三環系抗うつ剤	アミトリプチリン塩酸塩等	
	パロキセチン塩酸塩水和物		
	フルボキサミンマレイン酸塩		
	モノアミン酸化酵素阻害剤		
不整脈用剤	アミオダロン塩酸塩、プロパフェノン塩酸塩、キニジン硫酸塩水和物		
高脂血症用剤	シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム、ロスバスタチンカルシウム		
	フィbrate系	クリノフィbrate、クロフィbrate、フェノフィbrate、ベザフィbrate等	
	デキストラン硫酸エステルナトリウム		
消化性潰瘍用剤	オメプラゾール、シメチジン		
ホルモン剤	副腎皮質ホルモン	プレドニゾン等	
	甲状腺製剤	レボチロキシナトリウム水和物等	
	抗甲状腺製剤	チアマゾール等	
	グルカゴン		
	蛋白同化ステロイド	ナンドロロンデカン酸エステル等	
	ダナゾール		
	男性ホルモン	メチルテストステロン等	
痔疾用剤	トリベノシド、トリベノシド・リドカイン		
抗血栓剤	血液凝固阻止剤	ヘパリンナトリウム、ヘパリンカルシウム	
		低分子量ヘパリン	ダルテパリンナトリウム等
		ヘパリノイド	ダナパロイドナトリウム
		Xa阻害剤	フォンダパリヌクスナトリウム
		抗トロンピン剤	アルガトロバン水和物
	血小板凝集抑制作用を有する薬剤	アスピリン、イコサペント酸エチル、オザグレルナトリウム、クロビドグレル硫酸塩、サルボグレラート塩酸塩、シロスタゾール、チクロピジン塩酸塩、ベラプロストナトリウム、リマプロストアルファデクス等	
	血栓溶解剤	ウロキナーゼ、アルテプラゼ、モンテプラゼ等	
	乾燥濃縮人活性化プロテインC		
トロンボモデュリン アルファ			
バトロキソピン			
痛風治療剤	アロプリノール、プロベネシド、ベンズプロマロン		
酵素製剤	プロナーゼ、プロメライン		
糖尿病用剤	スルホニル尿素系糖尿病用剤	グリベンクラミド、グリメピリド、クロルプロバミド、トルブタミド等	
抗リウマチ剤	レフルノミド		
抗腫瘍剤	アザチオプリン、メルカプトプリン		
	タモキシフェンクエン酸塩、トレミフェンクエン酸塩		
	ゲフィチニブ、エルロチニブ塩酸塩		
	フルタミド		
	フルオロウラシル系製剤及びその配合剤	カベシタピン、フルオロウラシル、テガフル、テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤等	
イマチニブメシル酸塩			
アレルギー用薬	ザフィルルカスト、トラニラスト、オザグレル塩酸塩水和物		
抗生物質製剤	アミノグリコシド系、クロラムフェニコール系、セフェム系、テトラサイクリン系、ペニシリン系		
	マクロライド系	エリスロマイシン、クラリスロマイシン、ロキシシロマイシン、アジスロマイシン、テリスロマイシン等	
抗結核剤	アミノサリチル酸類		
	イソニアジド		
化学療法剤	キノロン系抗菌剤	ナリジク酸、オフロキサシン、シプロフロキサシン、ノフロキサシン、レボフロキサシン等	
	サルファ剤及びその配合剤	スルファメトキサゾール・トリメトプリム、サラズスルファピリジン等	
抗真菌剤	アゾール系抗真菌剤		
イトラコナゾール、フルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール等			
抗HIV薬	サキナビル、サキナビルメシル酸塩、デラビルジンメシル酸塩、ホスアンブレナビルカルシウム水和物、アタザナビル硫酸塩		
抗原虫剤	キニーネ塩酸塩水和物、メトロニダゾール		
その他の医薬品	インターフェロン、ジスルフィラム、イプリフラボン		
飲食物	アルコール		

【用法・用量】

投与量や投与回数のコントロールに用いられるのは、Quick 1 段法によるプロトロンビン時間の測定やトロンボテストである。

治療域は前者では正常値に対する比が 2 倍前後、活性に換算して 15 ～ 30% とするものが多く、後者では 10% 前後とするものが多い。

投与法は、ワルファリンカリウムとして、成人初回 20 ～ 40mg を経口投与し、1 両日休薬して凝固能が治療域に入ったのを確認して 1 ～ 5 mg 程度の維持量を毎日 1 回経口投与する方法と、初めから 5 ～ 6 mg を毎日 1 回経口投与し、数日間をかけて治療域に入れ、以後維持量を経口投与する方法とがある。

ワルファリンに対する感受性には個体差が大きく、同一個人でも変化することがあるので、プロトロンビン時間測定、トロンボテストなどを特に治療初期には頻回行い、治療域を逸脱しないよう努力する。

抗凝固効果の発現を急ぐ場合には、初回投与時へパリンを併用することがある。

小児における維持投与量 (mg/kg/日) の目安を以下に示す。

12ヵ月未満：0.16mg/kg/日

1 歳以上 15 歳未満：0.04～0.10mg/kg/日

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

1. 血液凝固能検査（プロトロンビン時間及びトロンボテスト）等に基づき投与量を決定し、血液凝固能管理を十分に行いつつ使用すること。
2. プロトロンビン時間及びトロンボテストの測定値は、活性 (%) 以外の表示方法として、一般的に INR (International Normalized Ratio : 国際標準比) が用いられている。INR を用いる場合、国内外の学会のガイドライン等、最新の情報を参考にし、年齢、疾患及び併用薬等を勘案して治療域を決定すること。
3. ワルファリンに対する感受性には個体差が大きく、出血リスクの高い患者が存在するため、リスクとベネフィットのバランスを考慮して初回投与量を慎重に決定すること。なお、初回投与量は、高用量での出血リスク、年齢、疾患及び併用薬等を勘案し、できる限り少量とすることが望ましい。



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10